

健全財政の維持に係る資料

資料 2

○用語解説

【歳出】

支出する金額。その支出には必ず財源の裏付けが必要となる。

【歳入】

収入する金額。歳出の財源となるもの。

【財源】

以下の2種類に分類される。

① 特定財源

使い道が決まっている歳入。国や県の補助金、市債、使用料などが該当。

例) 生活保護費の国庫負担金, 保育所の運営費の国庫補助金, 学校建設の際の市債など

対象の事業を実施しない場合は入ってこない財源

② 一般財源

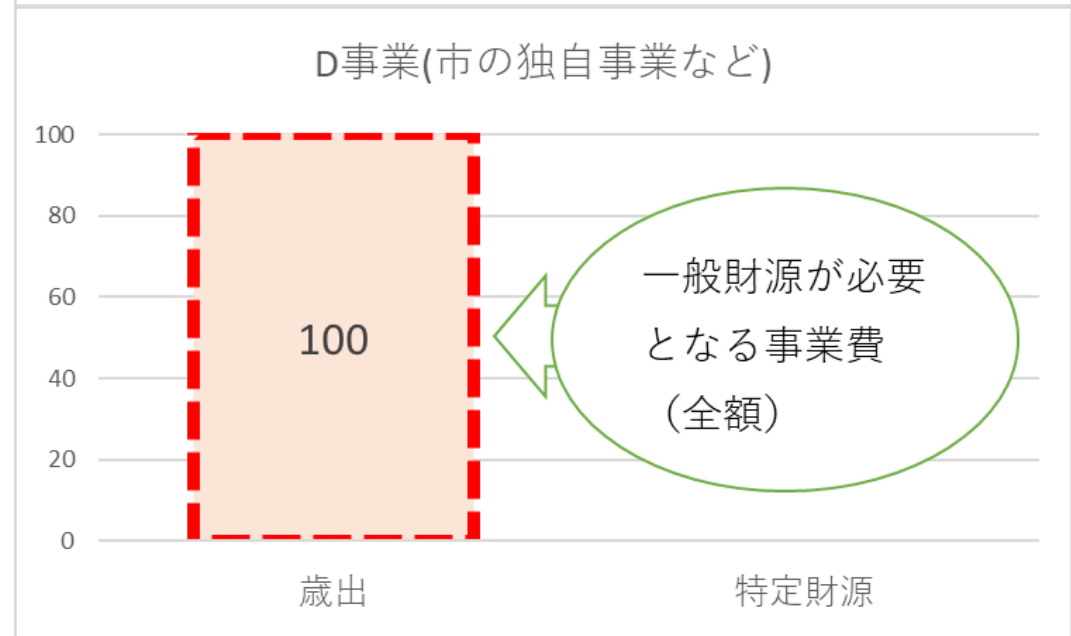
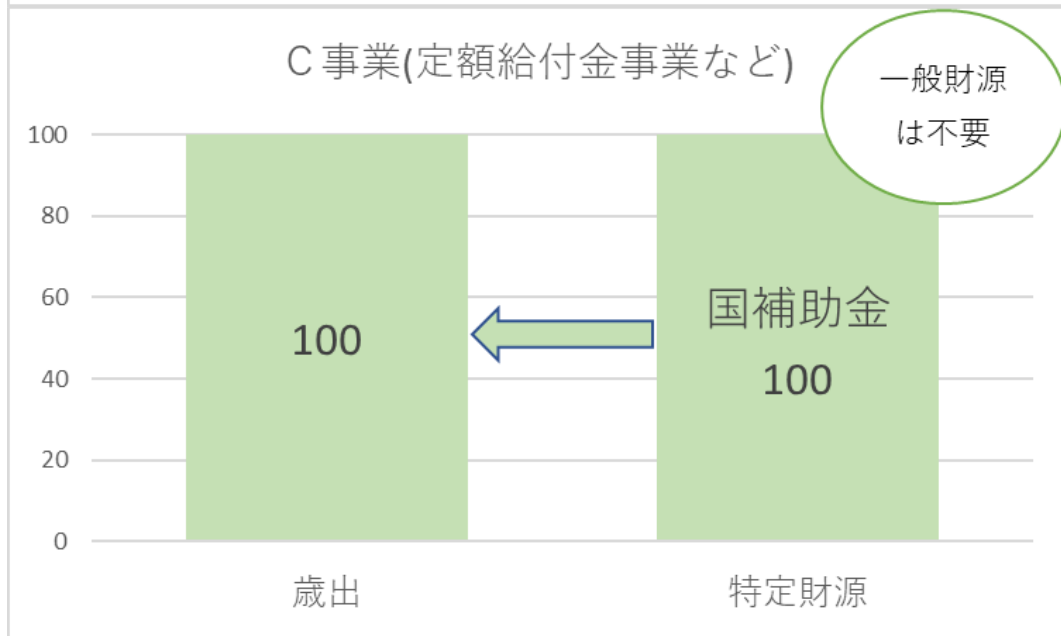
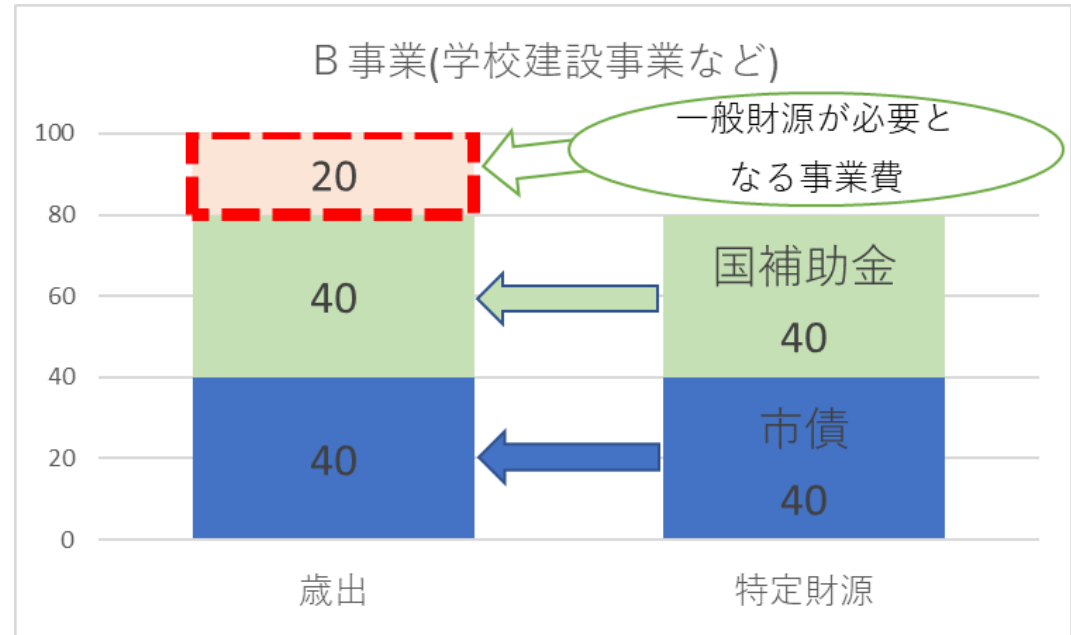
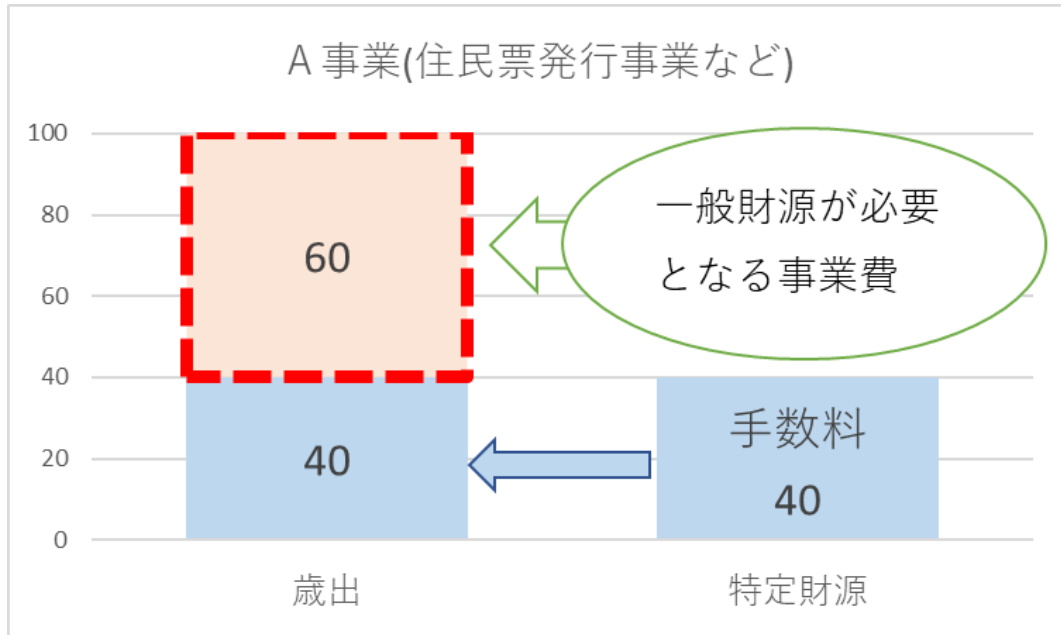
使い道が特定されず, どの経費にも自由に充当できる歳入。

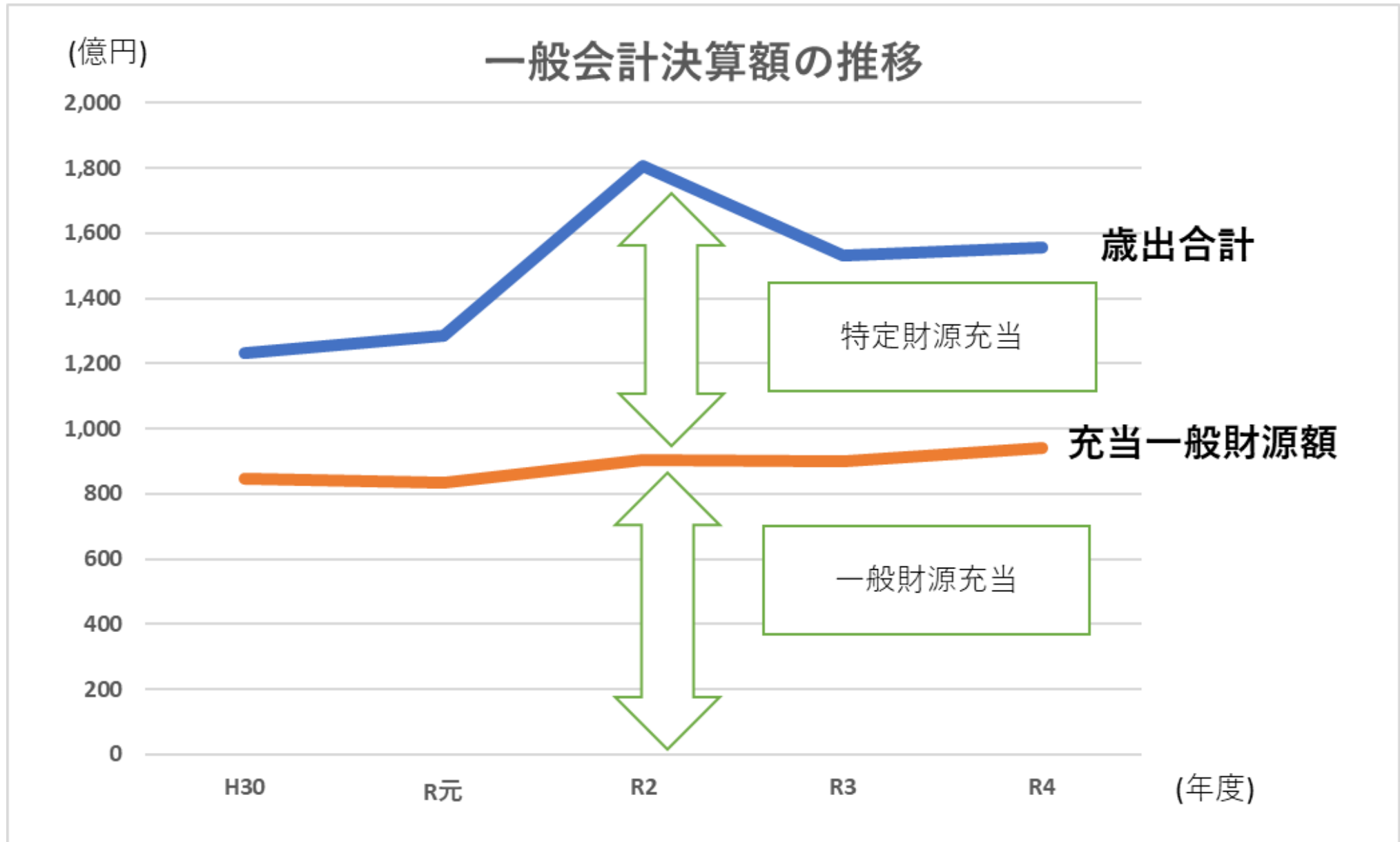
例) 市税, 地方交付税など

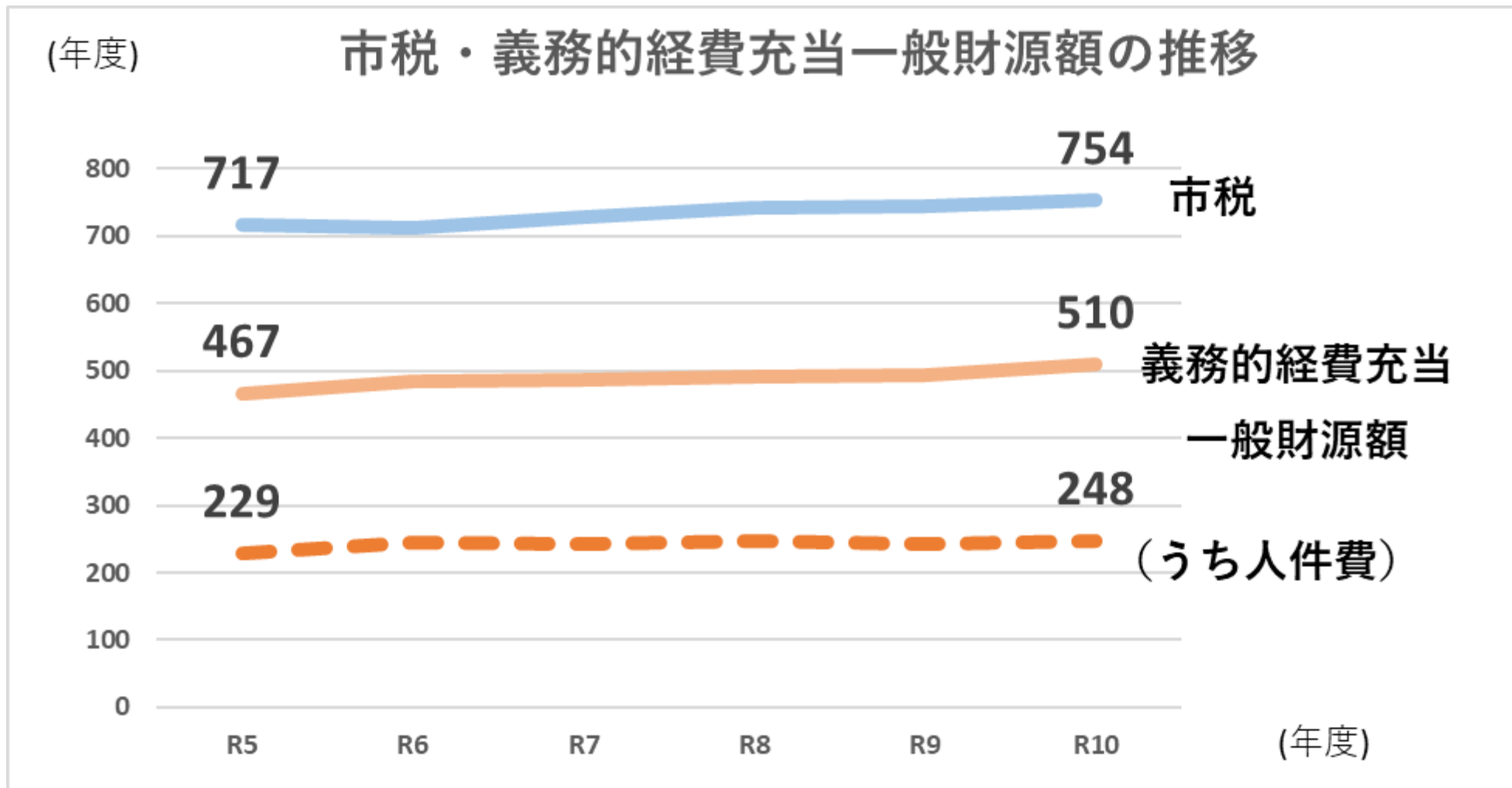
【充当一般財源額】

その事業を実施するために必要となる一般財源の額を表す。

充当一般財源額のイメージ（各事業の歳出を100とした場合）







※義務的経費とは、歳出のうち任意に削減できない極めて硬直性が強い経費のことで、具体的には職員の給与等の「人件費」、生活保護費等の「扶助費」及び地方債の元利償還金等の「公債費」からなっています。